

**世界で約800万人が体験したダイアログ・イン・ザ・ダーク 西日本唯一の常設会場
好評の年末年始プログラムがスタート**

対話の大切さ、人の温もり、視覚以外の感覚の可能性など、1年の節目に新たな気づきを

積水ハウス株式会社は、情報発信拠点「SUMUFUMULAB（住ムフムラボ）」（グランフロント大阪）で定期開催しているダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン（本社：東京都中央区、代表：志村真介）との共創プログラム、ダイアログ・イン・ザ・ダーク（以下、DID）「対話のある家」第23回プログラムを、11月8日（木）から開催します。

プログラムは、例年好評を得ているクリスマスとお正月がテーマ。期間前半は「真っ暗の中のクリスマス」と題し、イルミネーションやキャンドルで光り輝くクリスマスとは真逆の真っ暗の中で、鮮やかな色がなくても豊かに感じるクリスマスの時間を提供します。後半は、前回初開催で人気のあった点字のおみくじを開催。さらに、暗闇の中で書き初めに挑戦します。立ちこめる墨の匂い。暗闇の中で自分と向き合い、浮かんできた今年の抱負を書き初めに。

実施に先立ち、10月5日（金）正午よりWEBでのチケット先行販売を開始します。

①クリスマス・プログラム（11月8日～12月25日）
『真っ暗の中のクリスマス』

イルミネーションもキャンドルも灯らない
世界でたった一つのクリスマス
本物のクリスマスは見えない中に



②お正月・プログラム（1月6日～1月28日）
『真っ暗の中の書き初め』

暗闇の中の書初め
今年は何を書く？
これをしないと新しい年は始まらない！



暗闇で気づく価値に、来場者アンケートで約9割が「また来たい」と回答

ダイアログ・イン・ザ・ダークは、1988年にドイツで哲学博士アンドレアス・ハイネッケが発案。参加者は完全に光を遮断した空間の中へグループを組んで入り、暗闇のエキスパートである視覚障がい者のアテンドのもと、中を探検し、さまざまなシーンを体験する「ソーシャルエンターテインメント」です。これまで世界41カ国以上で開催され、800万人を超える人々が体験。

人の声の温かさ、対話の可能性の発見、視覚以外の感覚が育む「心地よさ」など、DIDの魅力は体験した人にしかわからない体験価値にあり、「DID 対話のある家」来場者アンケートでは「また来たい」が86%、2013年のオープン以来体験者数も16,000人を超えるなど高い人気を得ています。

【本件についてのお問合せ】 積水ハウス株式会社 広報部
（大阪）TEL 06-6440-3021 （東京）TEL 03-5575-1740
（本社）大阪市北区大淀中1-1-88 梅田スカイビル タワーイースト

ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」第23回 «①真っ暗の中のクリスマス»«②真っ暗の中の書き初め» 概要

- 開催場所：グランフロント大阪 北館ナレッジキャピタル4階（大阪市北区大深町3番1号）
積水ハウス「SUMUFUMULAB（住ムフムラボ）」
- 開催期間：① 2018年11月8日（木）～12月25日（火）②2019年1月6日（日）～1月28日（月）
- 参加料金：大人3,500円／学生2,500円／小学生1,500円（税込）
- チケット発売：2018年10月5日（金）正午～
- 定休日：火曜日・水曜日 ※12月25日（火）は開催いたします。
- 所要時間：70分
- 参加人数：各回6人まで
- 申込方法：予約状況確認・申込はWEBから <http://www.sumufumulab.jp/did/>
- 「対話のある家」お問い合わせ事務局：0120-39-9683（11：00～18：00 ※土日祝日除く）

D I Dと積水ハウスの共創プログラム「対話のある家」について

積水ハウスは「生涯住宅」の思想のもと、長年にわたり「スマートユニバーサルデザイン」などの研究活動を続けてまいりました。その一環として、「感じる力」「関係性の回復」「多様性を認める」を目的に、対話する場を提供し続けるDIDとの共創プログラム「DID対話のある家」を実施。「純度100%の暗闇」の中で、住まいにおける様々な生活シーンを体験し、日常では得られない気づきやコミュニケーション向上の機会を提供します。

さらに、ブランドビジョン「SLOW & SMART」を実現する、住まいの快適性を深化させる研究にも活かしてまいります。



見て触れて楽しめる
「DID 対話のある家」の展示コーナー

<これまでの開催実績>

- 開催日数：2013年4月26日から開始、開催日数は計883日間（2018年8月27日現在）
- 参加者数：17,734人／性別：男性38%、女性62%
- 年代：10代以下8%、20代29%、30代27%、40代22%、50代11%、60代以上3%
- クリスマス、お正月など、季節ごとに毎回異なるプログラムを開催、体験するたびに新しい発見が得られるとの声も多数いただいております。

<前回の年末年始プログラム体験者の声>

- 一人で生きているようで、助けられながら生きているのだと感じました。木の温もりの中でのクリスマス、素敵でした。（40代 女性）
- 暗いなか子どもの慣れていく力がすごかったです。最初は少し緊張して小さな声だったのが、最後はしっかりした声で話し楽しんでいました。親子で参加して、普段とは違った子どもの様子を知ることができて良かったです。（30代 女性）
- 想像していたよりも、はるかに新鮮な驚きと発見があった。人というのは目に見えない形も持っていると感じ、普段と違う自分が出てきたことにも驚いた。家は、見た目ではなく中身だということ、そして誰と過ごすかが大事なのだとイメージが変わった。（30代 男性）
- 縁側に並んで座り、温かい飲み物をすする。田舎のほのぼのとした家族に戻りました。初めて会った人たちと仲良くなり、家族になり、お互いに助け合う仲間になるのがとっても楽しい。墨の香り、墨をすする音が新鮮だった。（50代 女性）
- 暗闇の中で人の気配や声、物のにおい、味がきわだつ体験をまたしたいと思い、東京以来2回目の参加をしました。暗闇って何だかあったかいなあというのが今日一番感じたことです。暗闇の中で見た今年の一文字を光として、一年間頑張ろうと思います。（20代 女性）